

岡山多文化共生政策研究会 第5回 議事概要

日 時 平成 22 年 6 月 2 日 (水) 10:00~12:00
場 所 岡山国際交流センター 5F 会議室 (3)
出席者 岡山大学教員 7 名 岡山市及び総社市職員 (財)岡山県国際交流協会職員
岡山県国際課職員 5 名

○岡山大学 あいさつ

第5回の研究会になったが、成果も着々と上がってきている。今回、これまで、研究会で調査内容等検討してきた在住外国人生活状況調査（岡山県が実施）の結果報告書が出来上がったが、今後、会員の皆様方の活動にも活用していただきたい。

研究会としては、今後とも継続して、多文化共生施策の研究を進めていきたいので協力をよろしく願います。

○新会員の紹介

○岡山県在住外国人生活状況調査結果について（議題 1）

岡山県国際課から、岡山県在住外国人生活状況調査結果について説明し、逐次、質疑応答を行った。

※岡山県在住外国人生活状況調査報告書は、岡山県国際課のホームページに掲載しております。

説明内容は、同じく掲載している「岡山県在住外国人生活状況調査結果概要」とおりです。

●質疑応答

(岡山大学)

・概要版は、報告書全体から結果を抽出して作成していると思うが、選んだ基準があるのか。

(岡山県)

・調査結果で重要と思われるもの、傾向がよくわかるものをピックアップして載せている。

(岡山大学)

・報告書は、どのように公表されたのか。

(岡山県)

・県議会の委員会へ主な調査結果を簡単に報告している。同時に、マスコミへ発表している。

(岡山大学)

・県議会への報告の際、何か質問等はなかったか。

(岡山県)

・アンケート調査の回答率をもっと上げる努力が必要ではないか。という意見と、外国の運転免許が日本の免許に切替できるということを啓発してほしいという要望があった。

(岡山大学)

・自由記述は表記を統一したのか。本人が特定できるような情報は削除しているのか。

(岡山県)

- ・表記はできるだけ簡単にして、個人が特定できるような情報は削除している。

○岡山多文化共生政策研究会報告書（素案）について(議題 2)

岡山県国際課から、研究会報告書（素案）について説明し、逐次、質疑応答を行った。

●報告書の構成について

第1 はじめに

研究会設置の経緯、昨年度の活動の概要、今後の方針 など

第2 岡山多文化共生政策研究会の取組

研究会の開催状況、専門家や先進地での意見聴取

第3 基礎調査（多文化共生を取り巻く現状）

1 人口減少と少子高齢化社会の進展

2 県内在住外国人の状況

(1) 国籍別 (2) 在留資格別 (3) 最近の傾向

第4 在住外国人生活状況調査結果概要

岡山県国際課のホームページに掲載のとおり

第5 岡山多文化共生政策研究会会員の取組状況

会員が現在取り組んでいる事業等について記載する。

第6 多文化共生施策の方向性

1 コミュニケーション支援

2 生活支援

(1) 子育て・教育 (2) 就労 (3) 保険・医療・福祉 (4) 防災 (5) 女性

(6) 留学生

3 多文化共生の地域づくり

※研究会報告書（素案）については、検討中のため公表しておりません。

- ・1から3まで、それぞれ、【現状と課題】、【現在の具体的取組例】、【今後の方向性】について記載する。
- ・第1から第5までは、コンパクトに記述し、第6の多文化共生施策の方向性について、各主体の役割や具体的な施策など会員の協力をいただきながら書き込んでいきたい。

●質疑応答

(岡山大学)

- ・第3基礎調査の項中、在住外国人の現状については、できるだけグラフや図を入れてほしい。
- ・コミュニケーション支援の項目の一つに多言語での情報提供があるが、警察官も一定の語学訓練を受けていないと、登録後早いうちに戸別訪問して安心感を与えることができるかは疑問だ。
- ・就労の項中、研修生のトラブルが国内外にあるとの記述はどういうことか。

(岡山県)

- ・研修生を送り出す機関（外国）や受入企業（国内）とのトラブルを想定した記述だ。

(岡山大学)

- ・まとめ方であるが、コミュニケーション支援の今後の方向性の中で日本語学習支援があるが、子育て・教育、就労の項中にも日本語学習支援が出てくる。重複感がある。全体の構成の中でまとめ方の検討が必要である。

(岡山県)

- ・言葉は大きな問題ということで、今の構成になっているが、検討していきたい。

(岡山大学)

- ・新しい会員もいるので、報告書の趣旨をもう一度説明してください。

(岡山県)

- ・研究会の報告書については、大学では学術研究に、行政では施策検討の参考に、協会では業務の参考にしていきたいので、各主体がやるべきことを、詳しく記載したいと考えている。
- ・行政、関係団体を含めてどんな役割を担うかを具体的に記述したいと考えている。今後の方向性についても、各主体ごとに取組の具体例を記述してもいいと考えている。学については、学術研究に活用していただくとしているが、学の関わり方についての現在の考えがあれば教えていただきたい。

(岡山大学)

- ・会員の取組については、記載するにしても、今のままでは、岡山大学としての関わり方が弱いような気がする。今後内部でも検討し、別途、学としての報告書や書籍の形にできればと思っている。
- ・多文化共生を題目として、公開講座もやろうとしている。研究のひとつとして何らかの形になるものを作りたい。その成果を学生にいかにか還元していくかを考えていかなければいけない。

(岡山県)

- ・市のように現場で対応しているものと県では、施策の方向性も違う。研究会では、議論を集約していくが、一糸乱れずといったことは必要ないと考えている。学の立場で、ご意見は反映されないといけないが、行政に対して提言といったことなどそれぞれの思いを書いていけば良いのではないかと考えている。

(総社市)

- ・昨年、国の緊急雇用事業を活用して多言語相談員を雇用している。相談件数が一気に増えて、500件を超えている。電話も県外からかかってくる。その相談内容について、データベースを取っているため、報告書の項目について、問題点など大体見えてきているので、協力したい。

(岡山市)

- ・外国人市民会議（第2期）から出てきた提言を担当部署に照会して意見を聞き、第3期の取組に活かしていきたい。
- ・多言語相談についても相談件数が伸びていない状況なので、6月から相談方法を変えて有効活用を図っていくこととしている。

(国際交流協会)

- ・報告書の素案について、当協会の担当者からも意見をもらったが、表現の工夫が必要なところがある。日本語教室の教師のレベルの問題、ワンストップセンターの意味、研修生のトラブルの有無、医療通訳ボランティアの責任などについて、表現を修正した方が良く考える。

(岡山大学)

- ・今後の方向性については、影響を与えるということでは幅広く国や団体についての記述を入れていくのか、あるいは会員に限定した記述にするのか統一が必要だ。

(岡山県)

- ・就労関係は、県や市ができることは限られている。国や関係機関への要望の必要があるという書き込みも必要ではないかと考えている。

(岡山大学)

- ・ハローワークでの多言語相談は県や市ができないのか。国がやるべきなのか。

(岡山県)

- ・現状、職業斡旋については、国しかできないので、基本的にはそうだ。協会や市町村窓口での就労相談は、一般的な情報提供とハローワークの紹介になる。
- ・国においては、ハローワークでの相談業務を充実していただくとともに、県や市町村では国の事業を活用した職業訓練や日本語教育などの紹介をさせていただくことはできる。

(岡山大学)

- ・ビジネスの手法を活用した例は、従来の枠を超えた提言だ。学の立場でいうと、枠を超えたことを盛り込んでいくということは意味があると思う。

(岡山県)

- ・実際にビジネスを担う NPO 等が会員にいないので、少し弱いかもしれない。

○今後のスケジュール等について(議題 3)

(岡山県)

- ・7月中旬を目途に、報告書(案)を作成したいので協力をお願いする。
- ・最終的には9月頃に報告書を完成させたい。

(岡山大学)

- ・日にちも限られており、研究会にWGを設置したいので協力をよろしくをお願いする。

(岡山県)

- ・生活状況調査については初めての経験でもあり、発表が予定より遅れてしまった。現在、7月に案を作成し、9月に報告書を完成させるというスケジュールにしているが、これは来年度予算に反映させたいためだ。また、今年度は、県の国際化プランの改訂作業も行っており、多文化共生については、研究報告書からエッセンスを盛り込みたいと考えているのでよろしくをお願いする。

(岡山大学)

- ・岡山大学の公開講座を多文化共生をテーマに開催するので是非参加していただきたい。

○岡山県 閉会あいさつ

新メンバーを迎え、日程も厳しいが、報告書の完成に向けて、頑張っていきたいのでよろしくをお願いする。

○閉会

